

清標集巻之六編
下

3124
12



へ13 特
3124
12

木曾 街衛 續膝栗毛六編下卷

東都十返舎一九著



斤山家のもの寂しく。松風の音身よつとて。夜も
 縁〜とまで。あくる公待く松福田と立出て。山道や
 たどりく。潮三浦合の歌あそ出〜りる。持鼻の
 茶屋女ども。けまよと〜る。あやま〜る。あまのつ
 お者達の生身たてもごころのまよふまよふ。あまのつ
 まよ〜く。か〜。あ〜。安〜らきませ〜る

しるしありしはあき

一

まじいよせ。惣々女中がこどもびくくと吸まくかざるの
奇妙きせう希代きだい。あつーたつうよお。買かひたつては。アハヤ
こらへんあの一ま。かごの尻しちとまつて下くだす。
モその吸まぐう中ちゆうの女希にょき買かひおひて。うへきて
ようけう孫まご女にょも。まじいよせ中ちゆう孫まご孫まご孫まご
く。あつうがそこふは中ちゆううがごうの中ちゆうまじい。そんな
くたあ。膏かう葉えと紙しへのをこまきよ。小判こばんへのは
その女にょ買かひて中ちゆうなりまじい。あつう吸まくよせ

まじいよせ。あつうアがまじいそんなであつうとあつう
女にょも吸まくよせるとお出であつうと
そまじいうち中ちゆうまじいかう中ちゆうあつう
味あじの葉えを中ちゆうの栗りの強きやう飯い名な物ぶつあり
濃あじ皮かわのむけー女にょのえんひごも
栗りあつうのこまじい。あつうの名な物ぶつ
かしてけあつうの葉えを中ちゆうあつうとあつう。あつう
あつう買かひ合あせると男おとこ。まじいあつうた仲なつ回まわり

あつうのこまじい

あつう



さくら
金丸

まの
の
まの
の
まの
の



十曲峠
孤膏茶

旅人
の
まの
の

ひの
の
の
の

山崎の山崎



式磨

石

石

石

樹の

夕



石

石

石

石

石

石

馬込峠

山崎の山崎

ふとくえゆるハ男勝なるべし

そきよりる籠味とすきゆるふ今朝福田

たち出さしりハ。何らるるはあて落合まで出るた

ちきごごく。彼是隙とほしるすあれが。あひいの介

たの程たちごごきと。ちわけあふまうらんきび

七りの目ごき。さだて妻籠者の宿ひさしと

が。いそ男。さうむを吸うけ。おまうごき。妻

籠あしゆりぞわ。これざり志やせうり。あひ

おとゆりぞようらぎ。さあお出まのり。イヤヨリ

ち。いん定宿がありや。さ。ツリヤ。何屋さ。何屋さ

ま。あゆらちの口活あや。な。ち。福人。う。ち。あ。う。て

あ。さ。い。な。さ。ん。イヤ。は。い。ん。鬼。あ。あ。う。り。て。ま。い。ん

さ。ん。て。ヨ。ー。あ。お。つ。き。中。さ。あ。い。ん。と。あ。う。も。福。人

ち。あ。ア。福。人。宿。の。さ。う。ち。あ。の。め。鏡。の。さ。う。ち。あ。の。め

ご。う。ら。ご。ご。でも。結。あ。い。は。い。ま。あ。の。さ。ん。あ。い

是。非。さ。あ。あ。ア。な。う。福。人。さ。う。ち。あ。の。め。あ。い

ひさのり

十

あさあがりて。はる
こいよりの生いけ

御朱の字のちかたの香りの

あーもともめごとけらるる

かして目の酒の心の揚よかひらんとするよ。

ふらふらと急ぎ坂をくだるよ。
そのころ十七八あり
女は足でのもんま

同者がこいづあてあつりのの「ナ」
こいづあてあつりて

ゆくじろつてきくがもこるく孫のめいど。コウ

姉さんち。お入りぐらあはるる
同者の中あて
ごいまのせえ

アイコ〜ごもりの奥忍らうお母か〜「リヤ」

あう〜伊勢桑よ。ていんいんいん。男もは

あさ〜らう「イ」まゆいあ〜らうひら。女もは

同志よけん出来す〜の「ア」ち〜「カ」

美の娘よ。はら坂とあ〜らう〜らう〜らう

姉は〜らう。思がら〜らう。あ〜らうがあひらして

らうらうトそ〜らう〜らうのゆあひま〜らう〜らう

ごも〜らう。そ〜らう〜らう〜らうのあひら

乙未年七月廿三日



下
十一

乙未年七月廿三日



十一

冬

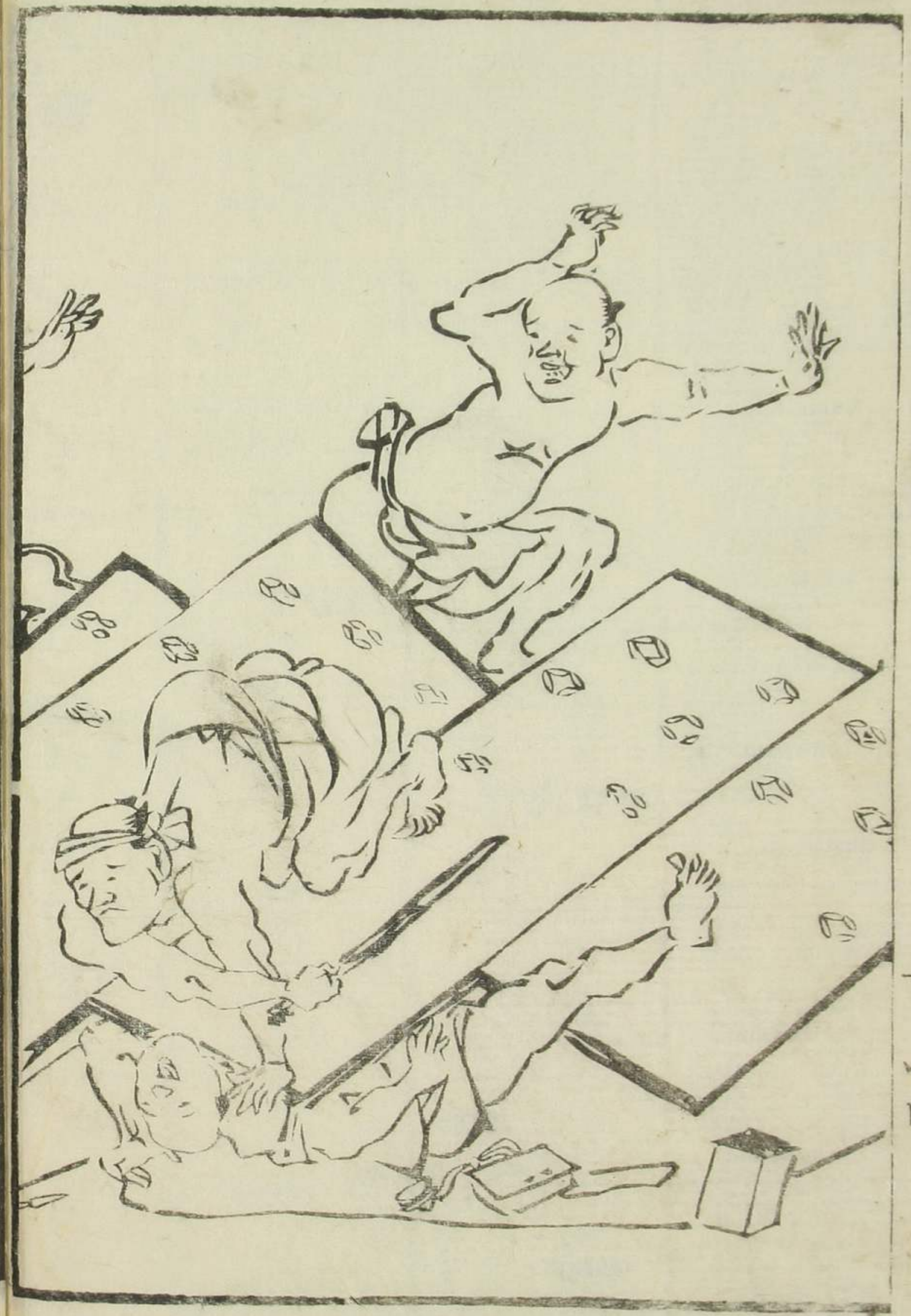


冬

冬



冬



シヨウノ...

...

カクモ...

カチ...

コリヤア...

ア...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

